

【令和7年度 学校教育目標】3年間で育てたい生徒像

自分の人生をより良くするために、自分で考え判断し行動できる生徒の育成【自走と協働】

- ※ 自走…自分の人生の目的（幸せ）を実現するために最適な方法を自ら見つけて行動・改善し、生涯成長し続ける
- ※ 協働…考え方や興味・関心が異なる者どうしが共通の課題解決のために互いの良いところを生かし力を合わせる

【令和7年度重点目標】教育課題解消のために目指す GOAL
主体的な学びを続けることのできる生徒の育成

【楽しい授業で自走×自律がはじまる】

□ なぜ、主体的な学びを続ける必要があるのか？

- * 自分の人生の当事者は自分自身（人生100年時代）
- * 自分の人生をより良くするのは学びによる成長

□ 生徒が主体的に学び続けるために必要なもの

- * 動機づけ…楽しさ（ワクワク、学び方を選べる）
- * 環境…**楽しい授業＝個別最適な学び＝自己調整学習**
（目標はできるようになることだから、大切なのは自分に合った学び方を選べること）

- * **自律…自分をコントロールする力/自己調整力**

□ 自律に必要な3つのスキル

- * 目標設定…達成目標の細分化・達成期限の設定
- * 振り返り…成功法則の発見・小さい成功体験の積み重ね
- * 習慣化…成功につながるよい行動を仕組化・記録

□ まず、授業が楽しければ…

- * どうしたら良いですか？→**〇〇したい！（主体的）**

【令和7年度経営の重点】経営課題解消のために力を集中
楽しい授業＝「個別最適な学び」への転換

【学びに新しい価値を！自己調整学習】

□ 主体性を促すにはどのようにしたらいいか？

- * 動機づけ＝「楽しい授業」
- * 「授業が好き」 R6:62.9% R5:56.7% R4:64.7%

□ 楽しい授業とはどのような授業？

- * **時間を忘れて夢中になっている**
- * **自分に合った方法やペースで学べる＝自己調整学習**
そのためには、
- * 自己選択・自己決定の場面/当事者意識/程よい困難
自分で解決/協働して解決/役に立つ/成長を実感
その結果、自分の学びに対して主体性や責任が生まれる

□ 授業を通して身につけて欲しいことは何か？

- * **自分に合った学び方（経験を通して身に付く）**

□ いつまでに授業スタイルを転換するか？

- * 今年からの3年間（R7～R9）で行います
- * 今後15年間で教師にとっての必須のスキル

【令和7年度 達成指標】 生徒アンケートは年4回実施…6月・9月・12月・3月

生徒アンケート「授業が楽しい」 70%

【令和7年度 GOAL の結果、生徒に現れる行動】

□ 生徒が笑顔で「えっ、もう時間？」「楽しかった!」と言っている。

- * 「楽しい」「好き」と思える授業が1つでも出来ればOK

□ 「自分の今の状況は?」「自分がどうしたいのか?」「支援が必要か?」という問いに自分の言葉で答えることができる。

【令和7年度 経営課題解消のために全職員ですること】

□ 考えすぎない。まずやってみる。そして、早く失敗を経験する。

- * 早く失敗すれば、早く失敗を生かすことができる。

□ 授業改善の当事者は誰か？

- * 授業改善に向けた負荷なく都合の良い条件が整うことはない。

【学力の向上・定着】

【具体像】自己調整学習における授業実践

- なりたい自分や設定した目標に向けて、学び方や学ぶペースを選択・決定できる
- 自分の考えや判断、行動を俯瞰できる
- 成功体験を再現する行動を習慣化できる
- 協働によって自力以上の成長ができる

【具体的方途】

- 自己調整学習への転換
 - ・自己調整学習の基本型を共有・試行
 - ・目標設定・振り返り・習慣化のスキル獲得
 - ・ICTの活用による多様な学び方
 - ・大原スタディログによる学びの質の向上
- 校内研修の充実
 - ・一般研修を通して組織的なスキルアップ
 - ・各種調査、アンケート結果の分析・活用
- 学力・体力向上プランの効果的な活用

【心の教育の充実】

【具体像】協働から人との関わり方を学ぶ

- 成功体験により協働の良さを実感できる
- 自分の思い通りにならないことを何度も経験することでレジリエンスが高まる
- 相互承認のもと折り合いをつけられる

【具体的方途】

- 人権・同和教育、道徳教育の充実
- 人権が尊重され、いじめをしなくて済む、誰もが安心できる居場所づくり
 - ・違うことが前提で違う考えを排除しない
 - ・一方的に自分の価値観で判断しない
 - ・安心して失敗できる風土づくり
 - ・良い関係性をつくる言葉の選択、伝え方
- 多様な考えに触れる協働的な活動の設定
 - ・学校行事や縦割りによる異学年交流
 - ・自問清掃を通した自己有用感の向上

【開かれた学校づくり】

【具体像】学校と家庭・地域が協働して育てたい生徒の姿を共有

- 教職員・保護者・地域、行政等、誰か生徒に関わることができる存在がいる
- 学校を介して保護者がつながっている
- 地域の人権への考えをアップデートする

【具体的方途】

- 信頼を得る為に丁寧に人間関係をつくる
 - ・挨拶や電話対応、言葉使い等、相手を尊重した丁寧な対応を行なう
 - ・学校からの教育活動に関する発信
- 地域の中での豊かな協働体験や出会い
 - ・ラブアースクリーンアップ大原、リパティフェスタ、職場体験等
- OPTA 活動の工夫を通した子育ての充実

【教育課題】生徒の姿に見る課題

○ 自分を俯瞰的に見て、より良くしようという主体性が育っていない

- * 自分を行動や考え方を俯瞰的に見ることが出来ない
- * 課題を自分事として捉え自分で解決する力が育っていない

○ 家庭の学ぶ力をつけることに対する当事者意識が高くない

- * 子どもが自分の生活を調整する力が付いていない
- * 子ども自身に壁を越えさせる経験（レジリエンス）が多くない
- * 保護者自身への支援、子どもとの関係性の在り方に支援が必要な家庭が見られる

【経営課題】教育課題を解決するための教職員の体制づくり

○ 育てたい理想の生徒の姿はどのような姿か？

- * 教師が教え込んでいるか？ or 生徒が自ら学んでいるか？
 - 班の学習面での目標…寝ない(10)、授業態度・私語(15)
 - Q.生徒会役員の皆さんのつくりたい学校に近づいたとき、喜ぶのは誰だろう？ → A.先生

○ 生徒のモチベーション(内的動機づけ)をどのように高めるか？

- * 生徒の主体性を育てられる授業スタイルにアップデートする
- * 関係性、言葉のかけ方(相談できる先生がいる65.8%)